24. 運動負荷時の ^{201}Tl 肺野集積増加について

平岡 俊彦 石田 良雄 山本 浩二
福島 正勝 恵谷 秀紀 井上 通敏
阿部 裕 (阪大・1内)
大森 英史 中村 幸男 松本 貴
久住 佳三 木村 和文 (同・中放)

虚血性心疾患における ^{201}Tl 運動負荷心筋イメージングにおいて ^{201}Tl の肺野集積増加がしばしば観察され，この機序として心ポンプ能障害による肺うっ血との関連が示唆されている．そこで本研究では，CAG 施行の48例（非梗塞群 (A 群) 23例，梗塞群 (B 群) 25例）にて，負荷時と安静時の ^{201}Tl 肺野集積度を測定し，CAG 所見，心機能との関係より検討をおこなった．方法は，symptom-limited 最大負荷時と安静時 ^{201}Tl イメージ (anterior view) で，心筋5セグメントのうちの最大カウント ROI に対する左上肺野 ROI のカウント比(L/M 比)により ^{201}Tl 肺野集積度を評価した．この結果，A 群では，正常冠血管例，一枝病変例で L/M 比の負荷時減少を，多枝病変例で不変もしくは増加を示した．B 群では多枝病変例と一枝病変例の一部で L/M 比増加を認めた．また，安静時・負荷時 L/M 比変化率と安静時左室駆出率の間に逆相関 ($r=-0.63$) が認められ，L/M 比増加は，多枝病変，梗塞の重症度に関係することが示唆された．

25. ^{99m}-テクネシウム標識アルブミン・マイクロスフェアーによる脳シンチグラムの臨床応用

福永 隆三 中村 雅一 常岡 豊
平田 充彦 高野 隆 (神戸掖済会・内)
井阪 吉成 松本 昌泰 恵谷 秀紀
木村 和文 (阪大・1内)

CIS 製ヒト血清アルブミン・マイクロスフェアー（直径 7～25 μ，平均 15 μ）（以下，HAM）に，^{99m}Tc を標識し，総頸動脈に注入することによって得られる，脳血流分布を示す脳シンチグラム（以下，HAM 脳シンチ）を，脳梗塞症例に応用し，その診断的有用性について，他の補助的診断法と比較し検討した．症例1: 左片マヒ，全失語の77歳男性．HAM 脳シンチで，前頭部上部・側頭部後部・頭頂部には放射活性陰性．左 CAG でも，同部を還流する血管の造影が欠損．症例2: 右下肢単マヒの67歳男性．発症当日の HAM 脳シンチで，前頭部の放射活性低下．同日の CT スキャンは所見なし．後日，左前頭部に小 enhancement 出現．γ-CBF FI では，HAM 脳シンチと，類似のパターンであった．症例3: 歩行障害の59歳女性．CT スキャンで，前頭部に低吸収域．HAM 脳シンチ，γ-CBF FI とも，前頭部が低値のパターンを呈した．考察: 1, CAG と比べ脳血管性状につき，容易に反復検査可能である．2, CT スキャンの弱点の，脳梗塞の早期診断に有効．3, γ-CBF FI の血流パターンと良く一致し，簡単な手技で血流分布を概観できる．

26. Human Serum Albumin Microsphere シンチグラフィーにより検出できた "Luxury Perfusion Syndrome" と考えられる一症例

恵谷 秀紀 木村 和文 津田 能康
井阪 吉成 楠 正仁 松本 昌泰
浅井 勉 米田正太郎 今泉 昌利
(阪大・中放，1内)

経過中，2回の脳 Microsphere シンチグラフィーを施行し，"Luxury Perfusion Syndrome" と考えられる症例を経験したので報告する．

症例は16歳男性で，右半身運動麻痺を主訴とする脳梗塞症である．発作後10日目に1回目の Microsphere シンチグラムを施行，シンチグラム上では，posterior temporal area に focal hyperemia を認めた．同時期に施行した脳血管撮影では，同部位に著明な capillary blush と early venous filling を認め，CT にても同部位に，著名な contrast enhancement を認めた．発作後23日目に2回目の脳 Microsphere シンチグラムを施行，シンチグラムでは，1回目の focal hyperemia の部位に一致して low perfusion area を認めた．翌日の CT では同部位に low density area を認め，造影剤による増強効果は認められなかった．

本症例は脳マイクロスフェアシンチグラフィーにて "Luxury Pertusion Syndrome" を検出したものと考えられた．

Presented by Medical*Online